

産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 土佐くろしお農業協同組合
都道府県 高知県
対象地域 須崎市
対象品目 水稻



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	● 温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

高知県の中央部に位置する須崎市は古くから1次産業が盛んであり、陸上では施設栽培を中心とし、海洋では野見湾や浦ノ内湾での養殖漁業が行われている。全国的に、水稻栽培における緩効性肥料で使用されているプラスチック被覆殻が、水田から水路や河川を通り海洋に流出し、海洋汚染の要因と指摘されている。当地域においても、プラスチック被覆殻の水田からの流出による海洋汚染が懸念されることから、流出量の削減や防止への取組が重要となる。この事業においてプラスチック被覆肥料の代替技術として、ペースト肥料やプラスチックを使用しない緩効性肥料を使用する事により、プラスチック被膜殻の流出量削減に取り組む。

また、既存のプラスチック被覆肥料を用いた側条施肥の場合、雨天時の田植え作業は施肥に不具合も起きるため、田植えが出来ないが、ペースト施肥の場合では、雨天時の田植え作業も可能となり作業労力の分散はもとより、大型規格タンクからペースト肥料を、ポンプで田植機に移す事により、既存の肥料袋と比べ運搬や、田植機への積み込み作業の労力削減につながる。

上記の技術は、先進的な取組みであると同時に、この事業において検証し普及のためのマニュアル作成や産地戦略を策定する事により、今後の環境改善と生産の効率化の実現を図る。

現在の栽培体系

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
主な作業名	耕起	荒代・代掻き									耕起		
			育苗										
			移植				稲刈り（収穫）						
			本田管理										
			プラスチック被覆肥料										
技術名													



グリーンな栽培体系

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
主な作業名	耕起	荒代・代掻き									耕起		
			育苗										
			移植				稲刈り（収穫）						
			本田管理										
			ペースト2段施肥										
技術名													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	22ha ▶	22ha	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	21.85ha ▶	22ha	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	21.85ha ▶	22ha	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	21.85ha ▶	22ha	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	・プラスチック被覆緩効性肥料での施肥	▶ ・ペースト2段施肥技術	・ペースト肥料もしくは、硫黄コーティング肥料を使用した場合、 プラスチック被覆肥料の被膜殻の流出防止と削減
省力	・晴天時だけの田植え作業 ・20kg規格の肥料袋の運搬、田植機への投入作業	▶ ・ペースト2段施肥技術	・ペースト2段施肥により雨天時の田植え作業が可能で、作業労力の分散 ・ペースト肥料を大型規格タンクからポンプで田植機に移すことにより従来の肥料袋と比べ運搬作業の労力の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	プラスチック被覆肥料の使用量削減（10aあたり）	41.3kg	▶ 0kg	
環境	プラスチック被覆肥料の使用割合	1割	▶ 0割	
環境	ペースト2段施肥	21.85ha	▶ 22ha	
省力	田植え時間（22haあたり）	146時間	▶ 109時間	1haで100分削減
省力	施肥準備時間（22haあたり）	50時間	▶ 6時間	肥料袋の運搬や、補給時間1haで120分削減

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

4

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

栽培マニュアルの紹介を行うとともに、グリーンな栽培体系の情報発信を図る。

関係者の役割

関係者名	高知県須崎農業振興センター	土佐くろしお農業協同組合	(株) 土佐くろしお村 村営みのり	須崎市
役割	技術指導 実証ほ調査 栽培マニュアル作成	技術指導 実証ほ調査 栽培マニュアル作成	ほ場の栽培管理 技術検証 データ収集	経理・事務 産地戦略策定 情報発信

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

農業機械名	作業内容	活用面積（R12）（ha）	備考
ペースト肥料専用田植機	田植え作業	22	